

はじめに

2019（令和元）年の11月に国際ゲームセンス学会が開催されました。その学会実施をきっかけとして、本書の中心執筆者の協働がスタートしました。幼少期から私と共にサッカーを続けてきた弟で、埼玉大学でサッカーのコーチング学を担当している弟の菊原伸郎氏、北海道教育大学岩見沢校で、スポーツ心理学を担当し、サッカー部の監督をしている安部久貴氏といったサッカーの競技に関わり、コーチングを研究している研究者、そして、東京学芸大学で体育科教育学を担当し、ボール運動・球技の授業づくりを研究している鈴木直樹氏、愛知教育大学で体育科教育学を担当し、サッカーの競技経験者でもあり、ボール運動・球技の授業づくりに精通している鈴木一成氏といったサッカーを教材として体育の授業づくりを研究している研究者と共に、サッカー指導についての思いや願いを語る中で、本書の構想が生まれました。

私達の思いは共通しており、サッカーを通して、子どものより良い成長を支えたいというものでした。そして、これまでの学校での体育指導や少年スポーツとしてのサッカー指導の成果や課題を喧々囂々、語り合い、教育学とコーチング学という垣根をこえて、学際的な指導のアイデアを構想し、それを発信していくことを決めました。そして、「子どもが育つサッカー指導の『秘訣』！！～教育学×コーチング学のハイブリッド・マニュアル～」とタイトルをつけて、書籍づくりを進めてきました。

現在、ゲームを通して学ぶアプローチがコーチングやティーチングの場面で広く活用されています。これは、「ゲームはゲームの中でうまくなる」という考え方のもと、良質のゲームと指導者の良質の働きかけによって促される学びとあって良いと思います。しかしながら、公式のルールに則ってゲームを行えば良いわけではなく、子どものレベルに応じてゲームを改善する必要があります。このゲームの改善指導で多くの教師やコーチが失敗してしまい、良質の学びの保証ができていない状況もあるように思います。そこで、本書は、サッ

カーを指導する人が、どのようにゲームを改善すれば良いかを具体的に提示し、指導者の支援となるように構成しています。また、ゲームをどのように観察し、プレイヤーにどのようにフィードバックを与えれば良いのかといった指導の秘訣を指南する書となっています。

ところで、私が選手の頃に比べて、サッカーの指導法はとても進歩していると思います。私自身もサッカー選手を引退後、日本の指導者養成に関わり、サッカー先進国や日本の指導法を分析・研究して、子どもたちに必要な指導法の確立に努力してきました。長年の多くの指導者の努力により、日本での指導法が良くなったことで、近年では海外で活躍する若い選手が増え、育成年代も含めた日本代表チームも世界の大会で好成績を収めることができるようになっています。

サッカーではレベルが上がってくると、技術や身体能力が高く、判断の早い選手が増えます。能力が高い選手は、常に状況を把握して、相手を上回るプレーを考えてくるので、その度にベンチから監督が指示を出すことは難しく、たとえ監督の指示が選手に届いたとしても、そのときにはすでにそのプレーは終わっています。そのため現代のスピーディーなサッカーの中では、選手自らが状況を素早く把握し、瞬時に適切にプレーすることが必要です。サッカーでは、味方や相手の位置、ボールが動き、常に状況が変わり続けるので、状況の変化を予測し、状況に応じた適切な判断が求められます。そのためには、常に広い視野を持ち、観察力を高めることが大切です。このような戦術的な意思決定をしてプレーできる子どもを育て、世界の選手達と対等に戦える選手を育てるためには、結果より過程、内容により重きをおいた指導をしなければなりません。

そして、チームスポーツでは、個人ひとりでできることは限られているので、お互いに協力する必要性を理解し、仲間と喜びを共有することが大切です。私は子どもの頃は人の気持ちを考えて行動することはできなかったと思います。自分がいいプレーすることばかり考えていて、仲間はやりにくいこともあったと思います。しかし 15 歳でプロ選手になった時、一番うまかったジョージ選手やラモス選手から仲間を大切にすることを学び、初めて人のため

にプレーすることを覚えたおかげで、選手として大きくレベルアップできたと感じています。このように人を大切にすることで、相手からも自分が大切にされ、お互いにいい関係の仲間が増えると、いいプレーが増え、日々の活動が楽しくなると思います。

さらに、努力することも大切です。努力によってできることが増え、試合で成功するプレーが増えると喜びや自信につながります。そして、失敗することも大切です。私は、多くの失敗からたくさんのことを学びました。試合やプレーを振り返り、次への準備を繰り返すことで成長が促進され、失敗から学ぶ習慣がついたと思います。そのおかげで、先入観を持たず、柔軟に思考することができるようになり、自分が変化していく大きな機会を得たように感じます。

私の父は、私に志を持って生きてほしいという思いから、名前に志の文字を入れました。志を見つけるために、まずは様々なことに真剣にチャレンジしてみることにし、そして、その中で夢中になれるものや自分に合っているものが見つかると思います。志すものが見つかったら、集中してとことんやってみる、すぐに飽きたり、簡単に諦めたりせず、継続していくことが大切だと思います。

そして、結果にこだわりすぎず、一喜一憂しすぎずに、常に前向きにサッカーをプレーして行ってほしいと願っています。本書を手がかりとし、サッカーの面白さを享受し、笑顔あふれるサッカープレーヤーたちがフィールドいっぱいに広がることを願っています。

2021（令和3）年5月

編者代表 菊原 志郎

子どもが育つサッカー指導の「秘訣」！！
— 教育学×コーチング学のハイブリッド・マニュアル —

目 次

はじめに	菊原 志郎…i
------------	---------

第 I 部 理論編

第 1 章 サッカーの楽しさ・喜びの源泉	鈴木 一成…2
----------------------------	---------

1. なぜカズは 54 歳になっても現役を続けられるのか 2
2. なぜ、「カズ」は 47 歳になっても当時を忘れないのか 4
3. 子どもにとってのサッカーとは？ 6
4. サッカーの楽しさ・喜びの源泉と学びの輪郭 12

第 2 章 サッカーを通して獲得させるもの	菊原 伸郎…15
-----------------------------	----------

1. 社会で求められる人材 15
2. 体育やスポーツ活動を通して伸ばせる子どもたちの力とは 16
3. サッカーの活動を通して伸ばせる子どもの力とは 17

第 3 章 サッカーってどんなゲームなの？	
-----------------------	--

— サッカーの解剖学！? —	安部 久貴…25
----------------------	----------

1. サッカーの専門知識としての「プレーの原則」 25
2. 「プレーの原則」 26

第 4 章 サッカー指導を通して子どもが成長するための指導者の役割	
-----------------------------------	--

.....	菊原 志郎…37
-------	----------

1. 指導者の影響力 37
2. 指導者として心がけていること 38
3. 判断力や連携が高まれば、ゲームは楽しめる 40
4. 子どもたちが思考することを大切にしたい指導 41
5. チームスポーツとしてのサッカー 42
6. より良い指導者の役割 43

第5章 体育でのサッカー指導の「これまで」と「これから」… 鈴木 直樹…45

1. 伝統的なサッカー指導 45
2. 学習指導要領指導書・解説書にみるサッカーの取り扱い 46
3. 「作戦学習」が授業づくりの中心へ 48
4. 真正の「戦術学習」を導入した授業展開に向けて 50
5. 発達段階に応じた指導を！ 55

第Ⅱ部 アイデア編

第6章 サッカーの動きが高まる活動のアイデア …………… 鈴木 一成…58

- 【いろいろリフティング】 58
- 【いろいろストップ】 60
- 【♪ゴロン ゴロン ピタッ】 62
- 【いろいろまたぎ】 64
- 【いろいろボール運び】 66
- 【ペアで2ボール交換】 68

第7章 サッカーにつながるやさしいゲームのアイデア …… 鈴木 直樹…70

- 【手ネット・リフトアップゲーム】 70
- 【ゲット & ゴー ゲーム】 72
- 【パスーパス ゲーム】 74
- 【サッカー相撲】 76
- 【スラローム・ドンジャンケン】 78
- 【突破ゲーム】 80

第8章 サッカーが上手くなるゲームのアイデア … 菊原 伸郎&安部 久貴…82

- 【3対1】 82
- 【4対2】 84
- 【3対3対3】 86
- 【4対4（+4サポーター）】 88

【3対1 + GK+FW：キック】	94
【4対2 + GK+FW：パス & シュート】	96
【4+1対3 + 2GK：パス & ドリブル&シュート】	98
【3対3 + FW】	100
【3対3 + GK (+1サポーター)：ゾーンゴール】	102
【3対3 + GK (+1サポーター)：4ゴール】	104
【4対4 (+2サポーター)】	106
【4対4 (+3サポーター)：ライン突破】	110
【4対4 (+2サポーター)：4ゴール】	114

第Ⅲ部 指導のヒント編

第9章 ゲーム中心の指導法 Ajit Korgalkar & Stuart Currie...120

1. Play-Practice-Play モデルの構成 120
2. Play-Practice-Play モデルの実践例 122
3. Play-Practice-Play モデルの解説 125

第10章 練習ゲームで選手を育てる：ゲーム観察の仕方 — 指導者は練習ゲームの中で何をみるべきか — 羽石 架苗...127

1. 試合で生きる選手を育てる指導者 127
2. ゲーム観察の重要性 128
3. ゲーム観察の仕方 129
4. ゲーム中心の指導の鍵となる観察 136

第11章 ゲーム中心の指導における発問 Bianca Aguiar...138

1. ゲーム指導上の課題 138
2. 発問とGBA 138
3. 発問方法の工夫 139
4. 質の高い発問を目指して！ 144

あとがき 菊原 伸郎...147